

2019年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社
(単位:億円 億円未満切捨て)

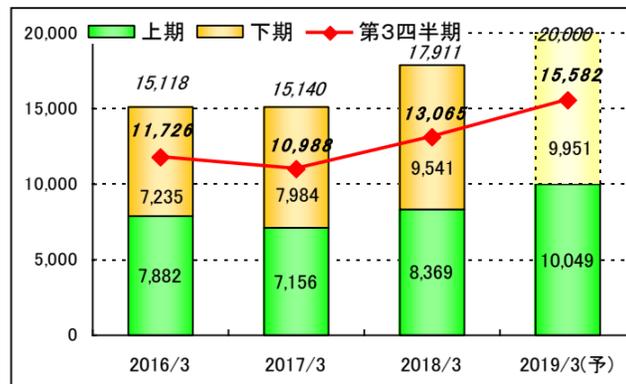
2019年3月期 第3四半期決算の概要

・本年度第3四半期決算は、鋼材価格が前年同期に比べ高い水準にあったことに加え、合金鉄等の拡販や海外販売子会社の売上増などにより、売上高は前年同期比19%増の1兆5,582億円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、支払利息の増加や為替差損の発生などに加え、特別損失として投資有価証券評価損を計上したことなどにより、前年同期比8%減の113億円となりました。
 ・配当は、中間配当を12月に75円実施、期末配当は75円の実施を予定しております。
 ※前第3四半期の業績は、暫定的な会計処理が前連結会計年度末に確定したため見直しが反映された後の数値となっております。

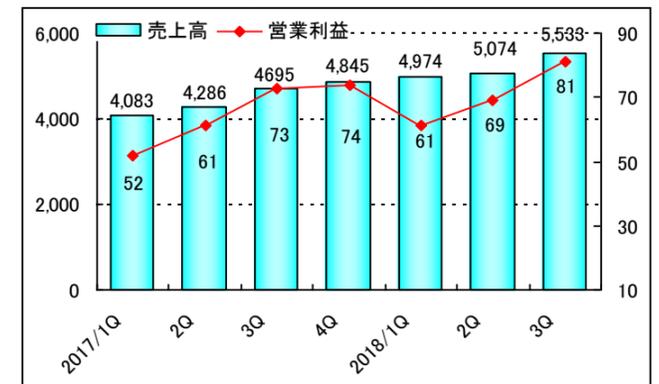
経営成績	当第3四半期 (累計)	前第3四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	15,582	13,065	2,517	19%	(売上高) 鋼材価格が前年同期に比べ高い水準にあったことや、合金鉄やステンレス母材の拡販、海外販売子会社の売上増などにより、前年同期比19%の増加となりました。
売上総利益	589	527	61	12%	
販管費	375	339	36	11%	(販管費) 新規連結した子会社の影響などにより、前年同期比で11%約36億円の増加となりました。 内、人件費は約24億円(当期に連結加入した子会社分は約6億円)の増加でした。
営業利益	213	187	25	14%	
営業外収益	53	42	11	26%	(営業外損益) 営業外収益は約11億円、営業外費用は約30億円増加しました。経常利益に対する主な影響は以下のとおりです。 受取利息 : 約18億円の増加 支払利息 : 約11億円の増加 為替差損益 : 前期 約3億円の差益 : 当期 約23億円の差損
営業外費用	79	49	30	62%	
経常利益	187	181	6	3%	(特別損益) ・投資有価証券評価損18億円:主に上場有価証券に対する減損損失 ・固定資産売却益/損:社員寮売却に伴い発生(建物部分4億円の売却益、土地部分1億円の売却損) ・災害損失0.4億円
特別利益	4	5	△0	△19%	
特別損失	20	1	18	947%	
税引前四半期純利益	170	184	△13	△7%	
法人税等	60	66	△6	△10%	
四半期純利益	110	118	△7	△6%	
親会社株主帰属分	113	122	△9	△8%	
非支配株主帰属分	△2	△4	1	△42%	
E P S	278.86円	301.40円	△22.54円	△7%	
四半期包括利益	17	160	△143	△89%	

財政状態	当第3四半期末	前期末	前期末比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	9,520	8,603	916	11%	(総資産) たな卸資産や前渡金の増加などにより、前期末比11%増となりました。 たな卸資産 1,451億円(前期末比 +8%) 前渡金 951億円(前期末比 +399%)
(流動資産)	7,492	6,441	1,050	16%	
(固定資産)	2,028	2,162	△133	△6%	
負債	7,513	6,566	946	14%	(負債) 短期借入金や前受金の増加などにより、前期末比14%増となりました。ネット有利子負債は21%増加し、ネットDERは1.9倍となりました。
(グロス有利子負債)	3,898	3,255	643	20%	
(ネット有利子負債)	3,508	2,893	615	21%	
NetDER	1.9倍	1.5倍	0.4倍	—	
純資産	2,007	2,037	△29	△2%	(純資産) 四半期純利益からの利益剰余金の積み上げはあったものの、配当の支払いやその他有価証券評価差額金の減少などにより、前期末比29億円の減少となりました。 この結果、自己資本比率は前期末比△2.3ポイントの19.5%となりました。
(株主資本)	1,787	1,729	57	3%	
(その他の包括利益累計額)	73	148	△75	△51%	
(非支配株主持分)	146	158	△11	△8%	
B P S	4,578.76円	4,621.96円	△43.20円	△1%	
自己資本	1,860	1,878	△17	△1%	
自己資本比率	19.5%	21.8%	△2.3pt	—	

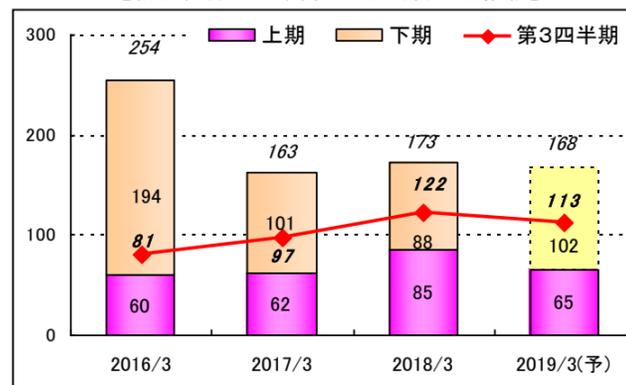
【売上高推移】



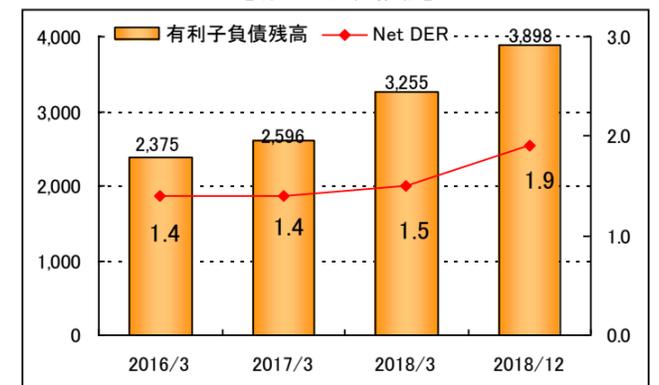
【四半期業績推移】



【親会社株主に帰属する当期純利益推移】



【有利子負債推移】



セグメントの状況	売上高			セグメント損益(経常損益)			主な要因
	当第3四半期	前第3四半期	増減率	当第3四半期	前第3四半期	増減率	
鉄鋼	7,661	6,721	14%	119	153	△22%	(鉄鋼) 鋼材需要が堅調に推移し増収。鋼材価格は高い水準を維持しましたが、上昇ペースが鈍化。仕入れコストの取引価格への転嫁に時間がかかり利幅が縮小し、減益となりました。
金属原料	2,194	1,490	47%	44	20	119%	
非鉄金属	744	715	4%	11	9	27%	(金属原料) ニッケルやシリコン系の合金鉄価格が上昇した他、クロム系の合金鉄やステンレス母材の拡販により増収・増益となりました。
食品	803	794	1%	15	12	17%	
石油・化成品	1,910	1,732	10%	16	14	9%	(非鉄金属) 国際価格が前年同期並みの水準を維持した中、アルミ・銅スクラップの販売増により増収・増益となりました。
海外販売子会社	2,411	1,627	48%	9	6	48%	
報告セグメント計	15,724	13,082	20%	215	216	△1%	(食品) サケ・カン類を中心に商品価格が高い水準を維持した他、鶏肉類の取扱増により増収・増益となりました。
その他	608	572	6%	5	5	0%	
合計	16,333	13,654	20%	220	221	△1%	(石油・化成品) 原油価格が総じて高い水準で推移した中、石油製品価格も高い水準が続く増収・増益となりました。
調整額	△750	△589	—	△33	△40	—	
PL計上額	15,582	13,065	19%	187	181	3%	(海外販売子会社) シンガポールにおける船用石油や非鉄スクラップの価格上昇および取扱増に加え、インドネシアでの鋼材販売増加により増収。また米国鉄鋼事業の採算改善も利益に寄与しました。

トピックス
 5月 ・マレーシアのコイルセンターTatt Giap Steel Centre Sdn.Bhd.に追加出資し子会社化
 7月 ・ブリヂストン化工品ジャパン(株)より冷凍・冷蔵倉庫向け防熱(冷熱)工事業を承継

通期の見通し	通期業績予想	前期実績		配当の状況	前期実績	当期実績	当期予想
		対前期増減率	対前期増減率				
売上高	20,000	17,911	12%	中間期※	50.00円	75.00円	—
営業利益	310	262	18%	期末	75.00円	—	75.00円
経常利益	260	255	2%	年間配当	125.00円	—	150.00円
親会社株主に帰属する当期純利益	168	173	△3%	配当性向	29%	—	36%

(※ 前期実績は、5株を1株にする株式併合を加味して換算しております。)